

埋文にいがた

MAIBUN

新潟県埋蔵文化財センター

MAIBUN
NIIGATA

2025 Mar

第126号

調査
発掘
遺跡
整理
紹介

柏崎市丘江遺跡・山崎遺跡、上越市堂古遺跡・二反割遺跡
南魚沼市六日町藤塚遺跡、R7イベント紹介、長岡市「順動丸シャフト」保存処理



こんなの出ました！
(橋状把手付壺型土器、村上市上野遺跡)



2024年度
発掘調査
遺跡の紹介 1

おか え やまざき
丘江遺跡・山崎遺跡

柏崎平野で営まれた弥生時代後期と中世の集落

所在地：柏崎市田塚

丘江遺跡と山崎遺跡は柏崎市に所在する遺跡です。鯖石川左岸の沖積扇状地の扇端に立地し、標高は6～7mです。発掘調査は国道8号柏崎バイパスの建設に伴い実施しています。丘江遺跡は、国道252号から南北750mに広がっています。2014年から実施した発掘調査では、南側の微高地に鎌倉～室町時代、安土桃山時代の集落域が形成され建物・井戸など多くの遺構が見つかり、北側の低地は水田域で当時の水田区画が見つかっています。2021年度の調査では畦畔下から全国2例目の「金箔が押された木製塔婆」が出土しました。水田域側は遺構が複数面あり、下層面で弥生時代後期の遺構と重複しています。

2024年度の第12次調査は、水田域側の市道範囲を調査しました。上・中層面は、鎌倉～室町時代、安土桃山時代の2018～2019年度調査で確認していた畦畔・溝の続きが見つかりました。遺物は少量ですが、唐津焼、瀬戸美濃焼、珠洲焼の土器・陶磁器、銅製の金具が出土しています。

下層面は、鎌倉時代以降の水田開発で削平され残存状況が良くありませんでしたが、弥生時代後期の竪穴建物2棟、平地建物4棟を確認しました。建物群は、2筋の川の間の低地に築かれています。川からは集落から廃棄された甕・壺・器台・高杯の多量の土器のほか、管玉製作に関わる緑色凝灰岩製の石核、未成品、赤玉石製の未成品、製作工具の砥石、台石が出土しました。集落で管玉の

製作が行われていたと考えられます。

山崎遺跡は、丘江遺跡の北縁から南北400mに広がっています。2014年から実施した発掘調査で、県道11号周辺の微高地に溝で区画され、鎌倉～室町時代の建物・井戸など多くの遺構が見つかり、大規模な集落を形成していたことが明らかになりました。

2024年度の第5次調査は、集落域の南縁に位置する市道範囲を調査しました。遺構は、掘立柱建物2棟、井戸12基、階段状の石組などが見つかりました。階段状の石組は湿地状の低地に降りられるよう配置されていて、礫石のひとつは側面に梵字が刻まれた五輪塔の地輪が転用されていました。

遺物は、土師質土器、珠洲焼、青磁、青花など土器・陶磁器、茶臼・砥石、曲物・下駄・箸・漆器などの木製品が出土しています。（飯坂盛泰）



丘江遺跡 弥生時代後期の建物群



丘江遺跡 安土桃山時代の水田区画



山崎遺跡 階段状の石組



2024年度
発掘調査
遺跡の紹介2

堂古遺跡・二反割遺跡 中世前期の集落

所在地：上越市米岡・三和区岡木

堂古遺跡と二反割遺跡は、高田平野の東部、保倉川の支流の一つである飯田川の中流域にあります。国道253号上越三和道路の建設に伴い、いずれも複数年に渡って調査が実施されています。今年度の調査は水路工事範囲が対象のため、幅が狭く、細長い範囲を調査しました。そのため、過去の調査結果も含めて述べたいと思います。

堂古遺跡は飯田川の左岸、標高14m前後の自然堤防上にあります。鎌倉時代～室町時代（13～15世紀）が主体の集落遺跡で、大きく2時期（13世紀と14・15世紀）の集落配置がみられます。中世の遺構は、井戸9基、土坑8基、溝4条、掘立柱建物の柱穴18基が見つかりました。遺跡の西側には大溝があり、遺跡の成立時期から存在した区画溝と考えられています。その延長方向で、同様の規模の溝を今回も見つけました。また両脇の土層を観察すると、もともと自然流路があり、その落ち込みを溝として利用した可能性があります。見つかった中世の遺物は少なく、青磁の椀、珠洲焼の甕・壺・片口鉢、土師質土器の皿、刀子、鉄滓などがあります。

二反割遺跡は飯田川の右岸、標高14.5m前後の自然堤防上にあります。堂古遺跡とは飯田川を挟んで300m程離れています。平安時代末～鎌倉時代初頭の短期間に営まれた集落遺跡で、12世紀前葉～中葉、12世紀後葉、12世紀末以降と3時期の変遷が想定されています。今回は北側調査区と南側調査区を合わせて、掘立柱建物3棟（1棟は過

年度の拡張）、土坑15基、井戸4基、溝9条、柱穴66基などが見つかりました。また2011年の調査時の掘立柱建物（SB121）が南北4間（11.2m）×東西4間（7.6m）の総柱建物とわかり、二反割遺跡内では最大面積の建物であることもわかりました。見つかった中世の遺物は非常に少なく、土師質土器の皿、珠洲焼の甕・壺、鉄滓などがあります。

二反割遺跡が営まれた12世紀は、貴族社会から武家社会へ大きく変革する時期にあたります。大溝での区画内に掘立柱建物が計画的に配置され、また大規模な建物も存在するなど、領主層などの有力者が関わった遺跡と考えられます。堂古遺跡は二反割遺跡以後の13～15世紀の集落遺跡です。大溝で区画された範囲に遺構が集中する状況は、武士の館のような様相が想定されます。このように遺跡の各様相を把握することで、飯田川中流域における中世前期の歴史的背景が明確になるものと思われます。

（石川智紀）



二反割遺跡全景と堂古遺跡（北東から）



堂古遺跡 大溝の完掘状況（北西から）



二反割遺跡 掘立柱建物の検出状況（北西から）



2024年度 整理作業 から

むいかまちふじつか 六日町藤塚遺跡の整理作業

所在地：南魚沼市余川^{よかわ}

六日町藤塚遺跡は国道17号六日町バイパスと国道253号八箇峠^{はつかとうげ}道路の工事に先立ち、2024年度までに10次にわたり発掘調査を実施してきました。現在埋蔵文化財センターにおいて、第4～6次調査の成果について報告書を作成中です。

遺跡ではまず、飛鳥時代を中心に奈良時代まで（7世紀後半～8世紀初頭）の遺構を調査しました。掘立柱^{ほったてばしら}建物^{たてもの}や土坑^{どこう}・溝^{みぞ}を検出し、土師器^{はじき}・黒色土器^{こくしよくどき}・須恵器^{すえき}のほか金属製品、砥石^{といし}や紡錘車^{ぼうすいしゃ}などの石製品が出土しました。土器は地元で作られたもののほか、胎土^{たいど}が地元産に比べて赤く、細かい砂を含む関東系のものが一定量あります。掘立柱建物の柱穴^{はしらあな}から出土するので、居住者が関東地方とつながりをもっていたことが伺われます。

飛鳥時代・奈良時代の遺構面を除去すると、下から6世紀前半から半ばの古墳時代の土器集積

遺構^{いこう}が見つかりました。最大規模のSX870では土師器・黒色土器・須恵器とともに白玉^{うすだま}や子持^{こもち}勾玉^{まがたま}、鉄鏃^{てつぞく}などが集積されていました。整理作業では現地の測量成果や出土状況写真、土器の接合関係を整理しながら、当時の集積状況を検討しています。

土師器甕^{かめ}は煮炊きの道具ですが、SX870出土の甕にはススやコゲなど煮炊きに伴う痕跡があるものは少ないです。逆に食器である杯^{つぎ}に被熱痕跡があります。また、土器のなかから白玉が出土している例もあるので、日常使いとは異なる状況（祭祀行為など）にあったと推定されます。これに対してSX2703の甕の多くには煮炊きの痕跡があり、杯には被熱がありません。出土位置と遺物の状態の関係から場のあり方を探っていきます。

（土橋由理子）



飛鳥時代～古代の遺構（北から）



古墳時代の土器集積遺構（南西から）



飛鳥時代～古代の遺構の整理



古墳時代の土器集積遺構の整理



埋文 インフォ メーション

2025年度企画展 1

きんぱくつきもくせいとうば とらいせん

金箔付木製塔婆と渡来銭—中世柏崎の生活と信仰—

4月19日(土)から開催

国道8号柏崎バイパスの発掘調査が終盤を迎えています。一連の調査で中世遺跡の調査が多く行われています。丘江遺跡^{おかえ}、東原町遺跡^{ひがしはらまち}、下沖北遺跡^{しもおきた}等を集落、信仰、水田等テーマごとに展示予定です。

また、柏崎市教育委員会が調査した柏崎町遺跡^{かしわざきまち}、馬場・天神腰遺跡^{てんじんこし}などの展示も予定しています。丘江遺跡の金箔付木製塔婆（全国2例目）は春・秋2回実物を展示予定です。

- ◆ 会 期：2025年4月19日(土)～11月24日（月・振）
- ◆ 時 間：9:00～17:00
- ◆ 会 場：新潟県埋蔵文化財センター
- ◆ 観覧無料：関連講演会も予定しております。
会期中 一部展示替えがあります。
最新情報はHPでご確認ください。

キッズ考古学教室

—2025年度の開催と募集について—

■2024年度のキッズ考古学教室

小学4年生～6年生の計12名が参加し、全3回の活動を通して、本物の縄文土器に触れ、土器作り、アンギン編み体験などを行い、また発掘現場へ赴き、縄文時代を体験し、理解を深めました。



第1回
ミニ土器作り



第2回
石器作り体験



第3回
アンギン編み体験

■2025年度 キッズ考古学教室について

2025年度の考古学教室も充実した活動となるよう計画中です。第2回では、火焰土器が出土した長岡市馬高遺跡^{うまたか}を訪ね、観察や体験を通して、縄文時代や考古学への理解を深める予定です。地域や学年の違う仲間たちと一緒に、考古学の世界を楽しみましょう！

※2025年度は各回（各定員16名）募集します。

- ◆ 日 程：第1回 7月6日(日) 9:30～15:00
「縄文時代はどんな時代？」
- 第2回 8月6日(水) 9:00～16:45
「遺跡に行こう！」
- 第3回 9月28日(日) 9:30～15:00
「縄文人の技を体験しよう！」
- ◆ 申込期間：（第1回）5月7日(水)～6月27日(金)
- ◆ 申込方法：氏名・学年・住所・電話番号を添えて当センターまでお申し込みください。

メール niigata@maibun.net

電 話 0250-25-3981

FAX 0250-25-3986



埋文
コラム

地元で守る文化財！

長岡市「順動丸シャフト」保存処理の試み

長岡市では、2023年度に市指定文化財「順動丸シャフト」の保存処理を行いました。順動丸は江戸幕府が所有していた外輪式蒸気船で、徳川家茂や勝海舟、坂本龍馬、長岡藩第12代藩主・牧野忠訓や河井継之助など幕府関係者の航行に活躍しました。戊辰戦争下では会津藩が船体を借り上げ、各地の戦場に武器や兵士を輸送していましたが、慶応4（1868）年5月、寺泊沖に停泊していたところを新政府軍の軍艦に見つかり、砲撃を受けて座礁。船員は船体を敵に奪われるのを恐れて座礁した順動丸を爆破しました。船は翌年解体され、シャフト1対（外輪の車軸：1本の長さ4.3m、重さ約4トン）だけが寺泊で保存されてきました。

通常、金属製文化財の保存処理は専門機関に作業を委託することが多いのですが、今回は地元長岡で継続的にシャフトの保存処理ができるように、保存処理の専門家である東北芸術工科大学の伊藤幸司教授からの指導・提案を受けて、二つの思い切った試みを行いました。

まず一つ目は、保存処理作業場を地元で作ったことです。市内の倉庫に保存処理槽を作り、伊藤教授の指導の下、市職員と地元住民とで保存処理作業に当たりました。日々の水温管理や濃度測定など、初めての作業に最初は戸惑いましたが、ゴールに向かっていく過程を自分たちで実感できたことは、大変貴重な体験となりました。また、諸作業を通じて毎日保存処理対象の文化財を観察することにもなり、シャフトの構造的な特徴について今まで以上に理解できたのも収穫でした。

二つ目の試みは、人や自然に優しく安全な糖類（トレハロース）を用いた保存処理法を採用した

ことです。一般的に金属製品の保存処理では合成樹脂や有機溶剤をしますが、人体に有害なため使用方法や管理に専門的な知識が求められます。トレハロースを使うことで、終始換気することなく、専用のマスクも付けず作業を進められたことは作業効率の面でも大きなメリットでした。

この事業ではふるさと納税型クラウドファンディング（GCF）も利用しており、それらも功を奏したのか、作業開始から最終の現地一般公開まで、皆さんからの注目度はこれまでになく高かったように感じます。保存処理をきっかけに地元住民の順動丸シャフトへの理解は深まり、多くの関心が寄せられました。

今後も引き続きシャフトを未来へ守り伝えるための活動を続けていきます。保存処理を終えて新しいスタートラインに立った順動丸シャフトの展示活用について、地元住民と共に考えていきたいと思っています。（長岡市教育委員会 加藤由美子）



←保存処理のダイジェスト動画を

ご覧いただけます。



高温ドライヤーを使って仕上げ作業



埋文にいがた 第126号

2025年3月14日発行

発行 新潟県埋蔵文化財センター Niigata Prefecture Archaeological Research Center

指定管理者：公益財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

〒956-0845 新潟市秋葉区金津93番地1 TEL：(0250)25-3981 FAX：(0250)25-3986

E-mail：niigata@maibun.net URL：https://www.maibun.net/

